平成 30 年 3 月 26 日（月）開催

会 議 録

京都市元離宮二条城保存整備委員会

第16回京都市元離宮二条城保存整備委員会会議録

1. 開催年月日 平成30年3月26日（月）
2. 開催場所 ANAクラウンプラザホテル京都
3. 開催時間 午前10時～午後0時5分
4. 出席委員：尼崎博正 座長
齋藤英俊 副座長
板谷直子 委員
岩崎奈緒子 委員
小寄善通 委員
小沢朝江 委員
田端泰子 委員
根立研介 委員
村上 隆 委員

平成30年3月26日

第16回京都市元離宮二条城保存整備委員会

議 事 摘 録

報告

- (1) 平成29年度における建造物部会の審議について
- (2) 平成29年度における障壁画部会の審議について
- (3) 平成29年度における記念物部会の審議について

議題

平成30年度の取組及び各部会への付託について

その他

議案又は報告事項	顛末
<p style="text-align: center;">開 会</p> <p>報告（各部会の報告）</p>	<p>(事務局より会議資料に基づき説明)</p> <p>(1) 建造物部会 本資料 1-2 頁, 別冊 1 参照</p> <p>報告 1 本丸御殿保存修理工事等について</p> <p>報告 2 東大手門保存修理工事の完了について</p> <p>報告 3 番所保存修理工事の完了等について</p> <p>(事務局) 今年度から 5 箇年で実施する重要文化財（建造物）本丸御殿 4 棟の修理工事は、昨年 8 月から台所及び雁之間の修理に着手した。主として平成 21・22 年度の耐震調査の成果を踏まえ、耐震壁や小屋裏補強等の補強工事を行う内容である。工期に併せて障壁面の修理も並行して進めている。来年度は、残り 3 棟（御書院、御常御殿、玄關）の修理工事を 11 月頃に着手する予定である。</p> <p>また、東大手門の修理は平成 29 年 3 月に竣工し、修理工事報告書を作成した。竣工後、内部公開を半年間実施し、工事担当者による解説を行うなど修理内容の発信を行った。</p> <p>番所は修理工事が平成 29 年 6 月に完了し、今後の活用を検討中である。</p> <p>(2) 障壁面部会 本資料 3-5 頁, 別冊 2 参照</p> <p>議題 第 3 次障壁面保存修理事業について</p> <p>報告 1 障壁面模写事業について（模写制作・はめかえ）</p> <p>報告 2 「展示・収蔵館」平成 29 年度展示事業について</p> <p>報告 3 障壁面の貸出について</p> <p>報告 4 杉戸の修理計画について</p> <p>報告 5 修理対象障壁面からの発見について</p> <p>報告 6 本丸御殿障壁面修理について</p> <p>報告 7 二条城の活用について</p> <p>(事務局) 5 箇年計画で進める第 3 次障壁面保存修理事業は、その 2 年度目として本格修理 24 面、応急修理 12 面を実施した。来年度は、当初計画どおり、本格修理 21 面、応急修理 41 面を行うことで部会の承認を得た。</p> <p>修理工事と並行しながら展示事業、障壁面の貸出し、模写画製作を継続して進める。</p> <p>今後の二条城の活用に当たり、二の丸御殿内部と庭園との一体的鑑賞の可能性を検討する基礎資料として、雨戸開閉による障壁面（美術工芸品指定外障壁面及び模写画の本紙と支持体）への影</p>

響をみるための環境調査を継続する。

- (3) 記念物部会 本資料 6-7 頁, 別冊 3 参照
報告 1 史跡等保存活用計画に伴う歴史調査
報告 2 石垣応急処置及び石垣調査について
報告 3 東側空間整備事業について

(事務局) 二条城の歴史調査は、来年度も引き続き、近世期を藤井先生、近代期を小林先生に御担当いただき、史料調査を継続する。これらの成果から二条城の本質的価値を抽出し、来年度から開始する史跡等保存活用計画策定事業に反映させる。運営は、記念物部会の下に、多分野の専門家によるワーキングを組織し、年 4 回程、計画案について御意見をいただく予定である。

危険性が指摘された本丸御殿エリアの観覧通路沿いの石垣には、ポリエステル製の防護ネットを施工するとともに、城内全域の石垣のオルソ画像の作成を実施中である。

東側空間は整備が完了し、要所に史跡の情報を掲載したガイダンス看板を設置した。さらに、北西第二駐車場では、平成 28 年 11 月から、整備着手前、整備中、整備後の石垣モニタリングを実施してきたが、今後も観測を続けていく予定であり、測量ポイントや計測方法等を検証しながら進めていきたい。

(事務局より会議資料に基づき説明) 本資料 8 頁 参照

- (1) 本丸御殿保存修理工事について (継続)
(2) 本丸御殿公開計画策定業務について (新規)
以上、建造物部会に付託
(3) 第 3 次障壁画保存修理事業計画について (継続)
以上、障壁画部会に付託
(4) 二条城史跡等保存活用計画策定について (新規)
(5) 番所の活用及び仮設総合案内所について (継続)
(6) 二条城の魅力発信に係る整備について (新規)
以上、記念物部会に付託

<本丸御殿保存修理工事について>

(委員) 昭和の修理 (昭和 57 年～平成元年) では、建物の一部が過去に二度の移築を経ている経緯が分からずに工事が進んだ。今回の修理に伴う調査では、二度の移築改造について何らかの知見が得られることを想定して進めてほしい。

2. 議題

平成 30 年度の取組及び各部会への付託について

<本丸御殿公開計画策定業務について>

(委員) 二の丸御殿と大きく違う点は、本丸御殿では障壁画の原画が入ったまま公開されることだ。計画策定に当たっては、公開に際する障壁画の保存に留意して進めてほしい。

<二条城史跡等保存活用計画策定について>

(委員) 計画策定に当たって設置するワーキングの位置付けと、具体的な運用はどうするのか。

(事務局) ワーキングは、当面の課題である二条城史跡等保存活用計画を策定するため設置する。文化庁の指針に基づき、指導を受けながら進め、コンサルタント業者をいれて案作成を行う。既に今年度から進めている歴史調査の成果を計画案に反映させて、ワーキングのメンバーに御意見をいただく。

(委員) ワーキングには、各部会の委員や市職員も入るべきではないか。文化財の活用を考えるなら、他分野・他部会との交流が行えるような組織づくりが望ましい。今後、二条城の活用を検討してきた「二条城の価値を活かし未来を創造する会」と、本委員会との意見を摺り合わせる場面があってもよい。

(委員) 文化財防災の視点から、近い将来に予測される災害や、年間200万人以上の観光客と海外からの入城者が多い状況なので、多言語標示による誘導等、円滑な避難が行えるよう、防災計画を充実してほしい。

(委員) ワーキングの開催回数は多い方がよいし、より実動性を考えて、若手の人材を動かせるような組織が望ましい。本委員会委員による視点もワーキングの議論に加えるとよい。

(事務局) 計画策定には、二条城職員と文化財保護課の職員も参加して進めていく。将来的には記念物の分野に限らず、多方面の専門家の方々に議論をしていただく場があればと思っている。

<歴史調査の継続 等>

(委員) 現在進めている歴史調査は、計画策定後も継続するべきだし、将来に向けた学芸部門の整備が必要ではないか。学芸部門の整備がしやすいような事務所名に変更する等も検討してほしい。

(委員) 障壁画は、今後、公開の頻度や貸出し要求も増えることが予想されるし、修理等で得られた情報を長期にわたり保管・継承するためにも、学芸的な人材や体制の確保は必要だ。

(委員) 情報の保管と継承に当たって、修理記録や調査成果は、市が毎年刊行している「京都市文化財保護課研究紀要」等の報告集へ掲載していくべきである。

(座長) 今後、研究成果を継承、継続、共有していく運営体制が必要だということ。今後の課題として検討していただきたい。

(事務局) まずは、史跡等保存活用計画の策定を進める。また、現在の学

芸員は4名で、原画修理、模写画製作、はめかえ等を並行して進めているが、平成50年までの長期の事業となる。学芸部門の必要性は事務局側も認識しており、中期的な視点で整備をしていく。引き続き御協力いただきながら進めてまいりたい。

<二条城の魅力発信に係る整備について>

(座長) 未公開文化財建造物の活用等は、記念物部会以外にも、関連する建造物部会へ諮ることが必要だ。

3. その他(事務連絡)

<二条城の魅力発信と未来へ継承するための事業>

(事務局) これまで国内外の方へ、二条城や文化財への理解や関心を高め、二条城の魅力を発信するための事業を実施し、併せて本格修理に係る財源の確保を図ってきた。今年度は、東大手門修理完成記念特別公開、大政奉還150周年記念ライトアップ等、二条城の歴史的価値を活かした事業に取り組んだほか、これまで未公開だった文化財建物を活用した事業にも力を注いできた。

<運営の変更等>

(事務局) 平成30年4月から休城日を縮小する。また平成31年4月1日から入城料等の改定を行うほか、来年度はホームページの刷新、ガイドブック作成、ドイツ語版パンフレット作成等を予定する。

(座長) 他に質問、意見等がなければ、委員会を終了する。

(委員会終了)

閉 会